（別記）

令和8年度名取市水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

名取市は、宮城県の県都である仙台市の南部に位置し、名取川・阿武隈川の両水系に囲まれた広大で肥沃な土地を有し、総面積98．17㎢で東西15km、南北8kmと東西に長く、西部一体を丘陵部、中部平坦地、東部平坦湿地部の3地帯からなる。気候は表日本型で太平洋を北上する黒潮のため冬季でも比較的温暖である。

平成23年3月東日本大震災の津波による浸水面積は1，500haを超えるなど農地に壊滅的被害をもたらしたが、その後の復旧工事やほ場整備により、平成29年度からは大部分の水田で作付可能となるなど、被災地域の営農再開は進んでいる。

このような状況の下、水田では主食用米をはじめ、大豆・麦、加工用米、飼料用米、せり・えだまめ・ねぎ、その他の野菜などの生産が行われている。令和7年度作付面積の割合は、主食用米が約68%、麦・大豆が16%、飼料用米が2%、加工用米が2%、その他の転作面積として6%と、生産の目安を上回った生産となった。生産の目安を上回った主な理由は、令和7年産米のJA概算金の大幅な引き上げや、飼料用米の一般品種に対する戦略作物助成の交付単価引き下げによる飼料用米の作付面積減少等の要因が大きく影響したためと考えられる。

以上の点を考慮し、収益力の高い水田農業を目指すため転作作物の中で最も割合の高い麦・大豆を転作における重点作目として、大豆との二毛作体系の積極的な作付を推進しながら需要に応じた生産の推進をしていく。

2　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上や水田農業の発展を図るため、水稲をはじめとした園芸を組み合わせた複合経営を行っていく。特に、本市のブランド農産物であるせりについては、ブランド振興を図るべく「仙台せり」として、令和6年3月にGI登録がされたところであり、今後更なる推進を図っていく。また、新規就農者の相談も増加していることから、せりの作付けをより一層推進する。令和７年度から新設された県枠の「露地園芸定着促進助成」、「露地園芸作付拡大助成」も上乗せする形で支援を続けていく。

3　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農地の利用集積は、圃場整備等に併せた作業受委託など農地集積を行っており、集積率は向上している。また、高齢による離農に伴い、農地中間管理機構を活用した集積も増加している。

水田利用状況を令和7年度～令和8年度において、数年間畑作が継続している水田、水稲の作付実績のない水田を点検する。対応方針については点検結果を踏まえたうえで、必要に応じて畑地化等の支援、畑地化促進事業の周知、活用も検討していく。

ブロックローテーションは、担い手農家等を中心とし、作業受委託等で主に大豆を転作作物とし推進していく。

4　作物ごとの取組方針等

(1)主食用米

需要に応じた主食用米の安定生産のため、「生産の目安」をもとにした生産に取り組むとともに、品質向上や安定生産に向けた技術対策、省力、低コスト生産等により、収益性

の向上を図る。

(2)備蓄米
　取組無し

(3)非主食用米
　ア 飼料用米
　食料・農業・農村基本計画(令和2年3月閣議決定)における飼料用米の生産拡大の位置づけに連動し、産地交付金を活用して、多収品種の導入や省力、低コスト生産等により作付拡大を図る。

　イ 米粉用米
　主食用米の国内需要が減少する中、産地交付金を活用して、米粉用米の作付拡大を図る。

　ウ 新市場開拓用米
　主食用米の国内需要が減少する中、産地交付金を活用して、米の新市場開拓を図る。

　エ WCS 用稲
　主食用米に代わる転作作物として、有効であること。戦略作物助成による交付単価が高いことから、WCS 用稲の作付拡大を図る。

　オ 加工用米
　主食用米の生産体制により取組可能な需給調整の有効手段として、JAの需給に係る情報等を踏まえながら、産地交付金を活用して、省力、低コスト生産等により作付の維持拡大を図る。

(4)麦、大豆、飼料作物
　宮城県における水田フル活用の最重点作物とした作付拡大の位置づけに連動し、産地交付金を活用して、団地化や大規模化による作業集積により作付の維持拡大を図る。

(5)そば、なたね
　戦略作物の作付が困難な地域における生産や実需者等との結びつきによる生産を、産地交付金を活用して、排水対策と適期収穫等により、単収増加と品質向上、作付の維持拡大を図る。

(6)地力増進作物
　地力増進作物を作付し、産地交付金を活用しながら、田へのすき込みを行い、地力回復と連作障害回避として当年度または次年度の作付に繋げるようにする。

(7)高収益作物
　地域の特産品である「せり」、「えだまめ」をはじめとする販売を目的とした野菜や花き・花木の生産に取り組み、産地交付金を活用して、水田における収益性の高い農業、農家所得の向上を目指し、作付の維持拡大を図る。
また、収益性の高い土地利用型園芸の拡大を目指し、産地交付金を活用して、露地野菜の団地化による作付拡大を図る。

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	1,585		1,590		1,590	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	62		70		70	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	64		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	54		60		60	
麦	64	6	70	7	70	7
大豆	322	27	325	30	325	30
飼料作物	23	6	25	6	25	6
・子実用とうもろこし	17		19		19	
そば	14	10	15	11	15	11
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	49		54		54	
・野菜	45		48		48	
せり	16		17		17	
えだまめ、ねぎ	4		5		5	
その他野菜	25		26		26	
・花き・花木	4		5		5	
・果樹	0.6		1		1	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他						
・〇〇						
畑地化	0.7		0.5		0.5	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	麦、大豆 （基幹作）	作業集積加算 （麦、大豆）	取組面積及び10a当たりの収量	（令和7年度） 麦52ha(392kg) 大豆285ha(144kg)	（令和8年度） 麦61ha(459kg) 大豆310ha(156kg)
2	大豆（種子用大豆は除く）、そば、飼料作物（別表３のとおり）	二毛作助成	取組面積の目標 戦略作物面積のうち二毛作の割合	（令和7年度） 43ha(9%)	（令和8年度） 46ha(9%)
3	飼料用米生産ほ場の稲わら （基幹作）	耕畜連携助成 （わら利用）	飼料用米作付面積 耕畜連携稲わら利用取組面積	（令和7年度） 62ha 39ha	（令和8年度） 70ha 45ha
4	せり（基幹作）	地域振興作物助成 （せり）	地域振興作物の作付面積	（令和7年度） 15.5ha	（令和8年度） 16ha
5	えだまめ、ねぎ（基幹作）	地域振興作物助成 （えだまめ、ねぎ）	地域振興作物の作付面積	（令和7年度） 4.1ha	（令和8年度） 5ha
6	せり・えだまめ・ねぎを除く野菜、花き・ 花木（基幹作）（別表６）	地域振興作物助成 （せり・えだまめ・ねぎを除く野菜、花き・花木）	地域振興作物の作付面積	（令和7年度） 25.3ha	（令和8年度） 26ha
7	子実用とうもろこし（基幹作）	子実用とうもろこし収益力向上助成	取組面積及び10a当たりの収量	（令和7年度） 17ha 810kg/10a	（令和8年度） 20ha 830kg/10a
8	そば、なたね、新市場開拓用米（基幹作）	【国枠】そば、なたね、新市場開拓用米助成	そば、なたね、新市場開拓用米作付面積	（令和7年度） 3.5ha	（令和8年度） 4ha
9	地力増進作物（基幹作） （別表８）	【国枠】地力増進作物助成	地力増進作物作付面積	（令和7年度） 0ha	（令和8年度） 1ha
10	新市場開拓用米	【国枠】新市場開拓用米の複数年契約	複数年契約取組面積	（令和7年度） 0ha	（令和8年度） 1ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：宮城県

協議会名：名取市水田農業推進協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	作業集積加算（麦、大豆）	1	10,000（追加配分時の上限単価15,000）	麦、大豆（基幹作）	出荷販売契約を締結し、収穫・出荷・販売を行うこと
2	二毛作助成	2	10,000（追加配分時の上限単価15,000）	大豆（種子用大豆は除く）、そば、飼料作物（別表3のとおり）	戦略作物助成の対象となる作物の作付地における戦略作物の作付に取り組むこと
3	耕畜連携助成（わら利用）	3	5,000（追加配分時の上限単価15,000）	飼料用米生産ほ場の稲わら（基幹作）	畜産農家との間に飼料用米生産ほ場の稲わらを飼料とする利用供給協定を締結し、飼料用米生産ほ場の稲わらを飼料として提供すること
4	地域振興作物助成（せり）	1	10,000（追加配分時の上限単価13,000）	せり（基幹作）	せりを生産及び出荷・販売すること。
5	地域振興作物助成（えだまめ、ねぎ）	1	9,000（追加配分時の上限単価11,000）	えだまめ、ねぎ（基幹作）	えだまめ、ねぎを生産及び出荷・販売すること。
6	地域振興作物助成（せり・えだまめ・ねぎを除く野菜、花き・花木）	1	8,000（追加配分時の上限単価11,000）	せり・えだまめ・ねぎを除く野菜、花き・花木（基幹作）（別表6）	せり・えだまめ・ねぎを除く野菜、花き・花木を生産及び出荷・販売すること。
7	子実用とうもろこし収益力向上助成	1	10,000（追加配分時の上限単価15,000）	子実用とうもろこし（基幹作）	子実用とうもろこしを生産及び出荷・販売すること。 別表7の取組メニューの内、1つ以上取り組むこと。
8	【国枠】そば、なたね、新市場開拓用米助成	1	20,000円/10a	そば、なたね、新市場開拓用米（基幹作）	需要者等との出荷・販売契約等を締結し、生産・出荷・販売を行うこと うち、新市場開拓米については、生産者側（生産者又は生産者団体のいずれか）と需要者側（需要者又は需要者団体のいずれか）の契約であること
9	【国枠】地力増進作物助成	1	0円/10a（上限単価20,000円/10a）	地力増進作物（基幹作）（別表8）	需要者等との出荷・販売契約等を締結し、生産・出荷・販売を行うこと
10	【国枠】新市場開拓用米の複数年契約	1	10,000円/10a	新市場開拓用米	生産者側（生産者又は生産者団体のいずれか）と需要者側（需要者又は需要者団体のいずれか）の契約であること

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

（別表3）飼料作物等の範囲

青刈りとうもろこし
子実用とうもろこし
青刈りソルガム
テオシント
スーダングラス
青刈り麦（らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。）
青刈り大豆
子実用えん麦
青刈り稲
WCS用稲
わら専用稲
青刈りひえ
しこくびえ
オーチャードグラス
チモシー
イタリアンライグラス
ペレニアルライグラス
ハイブリットライグラス
スムーズブロムグラス
トールフェスク
メドーフェスク
フェストロリウム
ケンタッキーブルーグラス
リードカナリーグラス
バヒアグラス
ギニアグラス
カラードギニアグラス
アルファルファ
オオクサキビ
アカクローバ
シロクローバ
アルサイククローバ
ガレガ
ローズグラス
パラグラス
パンゴラグラス
ネピアグラス
セタリア
飼料用かぶ
飼料用ビート
飼料用しば

（別表6） 産地交付金の活用方法の明細（個票）

地域振興作物一覧表

名取市水田農業推進協議会

作物番号	分類	作物名	作物番号	分類	作物名
1	野菜	キャベツ	24	野菜	おくら
2	野菜	たまねぎ	25	野菜	パセリ
3	野菜	にんじん	26	野菜	しそ
4	野菜	いちご	27	野菜	にんにく
5	野菜	はくさい	28	野菜	にら
6	野菜	ブロッコリー	29	野菜	みょうが
7	野菜	ほうれんそう	30	野菜	ウルイ
8	野菜	モロヘイヤ	31	野菜	こまつな
9	野菜	キュウリ	32	野菜	ズッキーニ
10	野菜	トマト	33	野菜	キクイモ
11	野菜	なす	34	野菜	ベビーリーフ
12	野菜	ピーマン	35	野菜	赤しそ
13	野菜	カボチャ	36	花き・花	きく
14	野菜	メロン	37	花き・花	けいとう
15	野菜	レタス	38	花き・花	ハス
16	野菜	さといも	39	花き・花	その他花き・花木※1
17	野菜	れんこん	40	野菜	その他野菜※2
18	野菜	だいこん			
19	野菜	青さやインゲン			
20	野菜	未成熟とうもろこし			
21	野菜	食用ばれいしょ			
22	野菜	食用かんしょ			
23	野菜	アスパラガス			

（その他の品目名）

※1その他花き・花木：カーネーション、バラ、綿花、ヒイラギ、ツゲ、ブプレリューム、キリシマ、サツキ、グラジオラス、トルコギキョウ、キイチゴ、ボケ

※2その他野菜：カリフラワー、チンゲンサイ、ゆきな、そらまめ、おおば、かぶ、グリーンピース、さやえんどう、しゅんぎく、スナップエンドウ、つぼみ菜、つるむらさき、なばな、クレソン、ゴーヤ

（別表7）

子実用とうもろこしの収量増大及び品質向上に向けた取組メニュー一覧

No.	取組メニュー	内容	確認書類等
1	**排水対策**	**心土破砕、弾丸暗渠、有材補助暗渠、無材穿孔暗渠、深耕、額縁明渠**	作業日誌、写真等
2	**均平作業（傾斜均平）**	**レーザーレベラーやGPSレベラーを用いた均平作業**	作業日誌、写真等
3	**堆肥の施用**	**家畜排せつ物の堆肥の利用** ・畜産農家から供給される堆肥の利用	作業日誌、購入伝票等
4	**効果的な施肥**	**適切な追肥の実施** ・4～7葉期の追肥や追肥時の窒素の増肥	作業日誌、購入伝票等
5	**農薬によらない病害虫対策**	**耕種的防除等の取組** ・病害虫抵抗性品種の利用、前作の作物残渣の撤去、病害虫の発生源となる雑草の除去等の耕種的防除のうち、いずれかに取り組むこと	作業日誌、写真等
6	**生物農薬の活用**	**有害生物の防除に生物農薬（BT剤）の活用**	作業日誌、購入伝票等
7	**難防除雑草対策**	薬剤によるイチビ、アレチウリ、ワルナスビ、帰化アサガオ類等の防除	作業日誌、写真等
8	**化学肥料の使用量削減**	**堆肥利用等により、化学肥料の使用量の30%以上削減** ・化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること	作業日誌等
9	**化学農薬の使用量削減**	**総合的な防除体系の確立等により化学農薬の使用量の50%以上削減** ・化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて50%以上削減すること	作業日誌等
10	**スマート農業機器の活用**	ドローンや収量コンバイン等の活用 ・ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること	作業日誌、写真等
11	**土層改良**	耕土の確保や土層の機能改善のための客土又は除礫の実施	作業日誌、写真等

（別表8）地力増進作物等の範囲

イタリアンライグラス
ソルガム
れんげ
えん麦
青刈りトウモロコシ
ギニアグラス
スーダングラス
アカクローバー
アルサイククローバー
ベッチ
ペルコ
カラシナ
レバナ
はぜりそう
マリーゴールド
ひまわり
キガラシ
ステビア
ナタネ
ヘイオーツ
ライ麦